

日中戦争と戦時体制

1 / 1

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

昭和

平成

今日の問い

日中戦争は、日本国内の政治や人々の生活をどう変えていったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 日中戦争の始まりと拡大

長期化する戦争

ろこうきょうじけん 盧溝橋事件

1937年、北京近くで日中両軍が衝突した事件。

にっちゅうせんそう 日中戦争

1937年から本格化した、日本と中国の全面的な戦争。

なんきんじけん 南京事件

南京占領のさい、日本軍が捕虜や住民を殺害した事件。

満州国をつくった日本は、さらに中国北部へ勢力を広げようとした。中国では、対立していた国民政府と共産党が、1936年の西安事件をきっかけに内戦をやめ、日本に対抗するため協力する動きを強めた。1937年7月、北京郊外で日中両軍が衝突する**盧溝橋事件**が起こった。これをきっかけに戦いは中国各地に広がり、**日中戦争**が始まった。日本は正式な宣戦布告をせず、当時は「事変」と呼んでいた。

1937年8月には上海でも戦いが始まり、日本は大軍を送った。日本軍は上海から進み、1937年12月に国民政府の首都**南京**を占領した。このとき日本軍は、捕虜だけでなく女性や子どもをふくむ多くの住民を殺害した(**南京事件**)。犠牲者の数については、今も研究者の間で意見が分かれている。国民政府は奥地の**重慶**に移って抵抗を続け、戦争は長引いた。

日本は占領地に日本に協力する政権をつくろうとし、1940年には南京に汪兆銘を首班とする政府をつくらせた。しかし中国の人々の抵抗はやまず、戦争は終わりが見えなかった。

ろこうきょうじけん
盧溝橋事件
1937年7月

日中戦争
戦いが各地に広がる

南京占領
1937年12月

長期化
国民政府は重慶へ

2 戦時体制

国をあげた動員

こっかそうどういんほう 国家総動員法

戦争のため人や物資を政府が動かせるとした法律。

たいせいよくさんかい 大政翼賛会

1940年、政党が解散してつくれた組織。

となりぐみ 隣組

地域で助け合い、たがいに見はる近所の組織。

戦争が長引くと、日本は国民や産業を戦争に動員する体制をととのえた。1938年に**国家総動員法**が定められ、議会の議決を経ずに、政府が勅令で人や物資を戦争に回せるようになった。軍需品の生産が優先され、生活に必要な物は不足していった。1939年には国民徴用令が出され、一般の国民も軍需工場などで働かされるようになった。

1940年には、ほとんどの政党が解散して**大政翼賛会**にまとなり、議会は政府の方針を認めるだけの場になった。地域には数軒ごとの**隣組**がつけられ、配給や防空の訓練などを通じて、国民を戦争に協力させる役目を果たした。言論も新聞やラジオを通じて政府や軍に統制され、戦争に反対する意見は取りしまられた。戦争の費用をまかなうため、国民には貯蓄がすすめられ、物資や労働力の面でも多くの負担が求められた。

問いへの答え

1937年の盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が始まり、日本軍は南京を占領したが、国民政府は重慶に移って抵抗したため戦争は長引いた。国内では1938年に国家総動員法が定められ、1940年には政党が解散して大政翼賛会にまとなり、国民は戦争に協力させられ、言論も統制された。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

